# 日常診療を変えるエビデンスを皆様へ。

日頃より「今日の臨床サポート」をご愛顧いただき、ありがとうございます。
2024年11月に改訂された臨床レビューの中から、日常診療に大きく影響を与えるようなエビデンスをご紹介します。

| | |
|---|---|
| 成人の予防接種 | ・最新の情報に基づいてコンテンツを見直し、改訂を行った。<br>・RSウイルスワクチンについて新たに項目を作成し記載した。<br>▸2023年に、60歳以上（Arexvy（アジュバントRSVワクチン）、Abrysvo（二価プレフュージョンワクチン））と妊婦（Abrysvo）を対象としたRSウイルスワクチンが国内で承認された。<br>▸ArexvyおよびAbrysvoのワクチン効果に関して、免疫不全のない60歳以上を対象とした研究では、接種シーズンの下気道感染に対してArexvyでは82.6%、翌シーズンが56.1%、2シーズンまとめると74.5%の効果が示され、Abrysvoでは88.9%、翌シーズンが78.6%、2シーズンまとめると84.4%の効果が示された（Surie D, et al. MMWR Morb Mortal Wkly Rep. 2023 Oct 6;72(40):1083-1088.）。<br>▸国内未承認のmRNAワクチンに関して、免疫不全のない60歳以上を対象とした臨床試験では、下気道感染へのワクチン効果が約83%と報告されている（Wilson E, et al. N Engl J Med. 2023 Dec 14;389(24):2233-2244.）。<br>▸ランダム化試験のメタ解析において、母親のワクチン接種はRSウイルスに感染した乳児の入院を減少させることが示されている（リスク比0.50 ; 95%CI : 0.31-0.82）（Phijffer EW, et al. Cochrane Database Syst Rev. 2024 May 2;5(5):CD015134.）。<br>・その他のワクチンについても2024年7月時点での新たな推奨内容にアップデートした。<br>▸高齢者におけるインフルエンザ高用量ワクチンは、2023年12月に日本国内でも販売製造承認申請が行われている。<br>▸肺炎球菌ワクチンは、2024年8月末にPCV20が発売され、PCV13は9月で終売となった。また2024年9月時点において日本国内で推奨されている65歳以上の成人に対する接種について、アルゴリズムを引用し加筆した。<br>▸帯状疱疹ワクチンは、2024年7月現在、国内では65歳以上への定期接種の位置づけについて検討されている。 |
| 偽痛風 | ・最新の情報に基づいてコンテンツを見直し、改訂を行った。<br>・2011年に欧州リウマチ学会連合(European Alliance of Associations for Rheumatology : EULAR)が、病名に関してピロリン酸カルシウム沈着症(CPPD)を用いるとの用語の標準化を勧告したが、依然として偽痛風(偽痛風、偽関節リウマチ(pseudorheumatoid arthritis)など)や軟骨石灰沈着症(chondrocalcinosis)など多くの用語が使用されている。これら用語の混乱は、文献検索時や患者とのコミュニケーション、臨床研究の妨げとなっている可能性が高い。そのため、世界的にも共通した用語の使用が待たれる(本稿では、偽痛風またはCPPDで記載している)。<br>・CPPDは高齢化(60歳以上)に関連して多様な症状を呈するが、この症候性関節炎の有効な分類基準はこれまで確立されていなかった。しかし、2023年に米国リウマチ学会(American College of Rheumatology : ACR)とEULARは、症候性CPPD疾患について初めて分類基準を作成し報告した。詳細は臨床レビューを参照されたい。 |
| 乾癬 | ・最新の情報に基づいてコンテンツを見直し、改訂を行った。<br>・新規外用薬であるタピナロフ（ブイタマー）クリームが、尋常性乾癬・アトピー性皮膚炎の治療薬として2024年6月24日に承認された。<br>▸同薬は1日1回外用のクリーム基剤の非ステロイド抗炎症外用薬。基剤に比べ乾癬の皮疹に対して有効性を示した（Igarashi A, et al. J Dermatol. 2024 Oct;51(10):1269-1278.）。<br>▸乾癬患者における注意すべき有害事象として毛包炎・ざ瘡、接触皮膚炎が挙げられる。<br>▸1本15 gチューブで、2024年9月時点での薬価が1 gあたり300.80円である。3割負担で1本1,353.6円となり、処方量が多くなる際は薬価の説明を行っておいた方がよい。 |

## 『今日の臨床サポート』とは

エビデンスに基づく日本語によるリファレンスツールです。約1,430の疾患・症状概要、診断・治療方針などをご覧になることができます。ジェネリックを含む薬剤情報、疾患・症状の患者向け説明資料、インターネット版ではPubMedへのリンクもご用意しています。

QRコードまたはURLからアクセスできます。
イントラ版をご契約の施設では、院内端末からログインなしでご覧になることができます。

https://clinicalsup.jp/jpoc/

ログインには、①ユーザー名、②パスワード、③施設コードが必要です。管理者の方にご確認ください。

最新エビデンスをタイムリーに受け取れます。ご登録はこちらから。

エルゼビア・ジャパン株式会社　ソリューション営業本部
2025年1月